

第7章 今後の検討課題

1 本施設の運営体制・仕組みの具体的検討

本施設の運営・マネジメント体制については、一義的には選定された事業者が具体的に検討する事項であるが、市としても、市有施設として最高のパフォーマンスを発揮できる仕組みを継続して検討していくことが必要と考えられる。

(1) 地域関係者との意見交換、情報共有

本施設が市有の公共施設であることも踏まえ、本施設の有効活用により、市にある各種の行政課題の解決（例、中心市街地の活性化）につなげる方法等を、本事業の関係者、市内の関連団体等と意見交換、情報共有を行うことが重要と考えられる。

(2) シンポジウム等の検討

本施設が市民から理解され愛される施設となるように、本施設に関する理解・期待を高めるために、市民向けのシンポジウム等を継続して開催していくことが考えられる。

2 追加的な収益源の確保に向けた具体的な検討

追加的な収益源の確保に向けた具体的な検討は、事業者の主要な検討事項となる。しかし、事業者公募時の事業実施時の条件や審査基準等の設定、条例との整合性確保等の観点から、引き続き市としても検討していくことが必要である。

(1) ボックスシートの運用方法の検討

ボックスシートは事業者の収益向上につながるるとともに、その運用方法によっては施設やその周辺の賑わいの創出にもつながる。そのため、その運用の方向性について検討していくことが必要である。

(2) 広告収入の最大化に向けた検討

ネーミングライツも含めた広告等の収入も事業者の収益向上につながる重要な仕組みで、民間事業者の工夫やノウハウの発揮が期待される場所である。一方で、その内容は市のイメージにも影響があるほか、市有施設として市にも一定の還元を求めることが想定される。そのため、その運用の方向性について検討していくことが必要である。

(3) 物販手数料の検討

アリーナで開催されるコンサート等では物販収入が重視されているため、施設の利用促進を図る観点から、主催者が利用しやすい仕組みとすることが望まれる。これにより、事業者の収入も増加することが期待される。一方で、本施設の利用料金は条例で規定されることになる想定されるため、物販に関する手数料の設定の有無、内容等について、整理していくことが必要である。

(4) 駐車場利用料金等の検討

沖縄は車社会であることから、本施設の来場者においても、自家用車を利用する人も多

いと想定される。コザ運動公園の駐車場では現在利用料を徴収していないが、本施設のような収益施設においても同様の扱いをすることの適切性について検討していくことが考えられる。また、市では沖縄市地域公共交通網形成計画を作成し、市における望ましい公共交通の姿を整理しており、その視点も踏まえつつ、駐車場利用料金等についても検討することが必要とである。

3 本施設へのICT導入に向けた具体的検討

スポーツ施設へのICT導入については、NACK スタジアム大宮で高密度Wi-Fi サービスを活用したものが行われており、今後増加していくことが想定される。また、市のICT関連事業と本施設との連携の可能性や内容について検討することは重要と考えられる。

(1) 運営面（ソフト面）での対応

ICTは本施設の中で開催されるスポーツやコンサート、イベントの魅力を高めるものであることが望まれる。想定される各分野において、どのような連携策が想定されるか検討することが必要である。

(2) 施設計画画面（ハード面）での対応

本施設で想定される連携策を踏まえて、それに必要な設備を整理し、その設置時期、費用負担者、投資額の回収方法等について検討することが必要である。

(3) 企業との連携可能性の検討

スポーツ施設でのICT活用について、世界や日本で先行して検討している企業と連携する等、実現性のある具体的な方向性について検討することも有効と考えられる。

(仮称) 沖縄市多目的アリーナ施設等整備に関する運営手法等検討調査業務

発 行 日 : 平成 30 年 3 月

発 行 者 : 沖縄市 企画部 プロジェクト推進室

沖縄市仲宗根 26 番 1 号

T E L : 098-939-1212

調査・編集 : みずほ総合研究所株式会社

東京都千代田区内幸町 1 - 2 - 1